

令和 7 年度 評価計画及び自己評価

(計画)・中間・最終)

和庄中学校区 校番13 学校名 呉市立和庄小学校

a 学校教育目標	夢を持ち 自ら学ぶ ～人を大事に ねばり強く～	b 経営理念 ミッション・ビジョン	〈ミッション〉(学校の使命) 確かな力と社会性を身に付け、地域を愛し、未来を創造しようとする児童生徒の育成 〈ビジョン〉(将来の学校像) 9年間を通して、夢を持ち自ら学ぶ児童・生徒を育成することにより、児童生徒・保護者・地域から信頼される学校
----------	----------------------------	----------------------	--

c 中期経営目標を踏まえた現状(進捗状況)と今年度の重点	現状 ○小中一貫教育の推進により、中学校区の共通経営理念に基づいた研究・教育活動が行われている。 ●基礎学力、活用力の定着に課題があり、個人差・学年差が大きい。 ●目的や場面に応じて自分の考えを表現することが難しい。 (今年度の重点) ①主体的・対話的で深い学びに向けた授業改善の推進。 (子供の問いを生かした「考える授業づくり」)・・・ICT、思考ツールの効果的な活用) ②防災教育の深化に向けた、地域の特色を生かしたカリキュラムマップの実践。 ③和庄中学校区スピリットに基づく9年間を見通した組織的な生徒指導。 ④健康増進・体力の向上に向けた、家庭連携による基本的な生活習慣の定着。(早寝・早起き・朝ごはん・メディアコントロール)
------------------------------	--

育成を目指す資質・能力	知識・技能 思考力・判断力・表現力 主体性・粘り強さ
-------------	----------------------------

評価計画(中期経営目標を設定してから①・②・③年目)						自己評価					
重点	d 中期(3年間)経営目標	e 短期(今年度)経営目標	f 目標達成のための方策 (こんなことをして達成します)	g 指標 (効果を見とる目安)	h 目標値	上半期			下半期		
						i 達成値	j 達成度	k 評価	i 達成値	j 達成度	k 評価
★★★ 確かな学力	学力の向上 ①貫	主体的・対話的で深い学びにつながる思考力・判断力の育成	・和庄中学校区授業モデルに基づき、ペアやグループ等での対話を仕組むとともに、自律的な対話で学習を深めることができる工夫をする。(理由付けを大切にします。) ・各教科で言葉とイメージ、既習事項や生活経験等をつなげ、新しい知識・価値を創り出し、理解できたりしたことをDOHM(大事にする・応援する・ほめる・認める)の視点から実感を持たせる。 ・整理・分析場面、思考ツールを活用し、児童が考えなくなる授業づくりを行う。	・「考えを深めたり広げたりする」に関する児童の肯定的回答の割合 ・自己効力感(努力すれば自分もたいていのことはできると思う)に関する児童の肯定的回答の割合 ・思考ツールで考えることができると思う児童の割合 ・国語、算数の単元末テストの平均通過率 ・「全国学力・学習状況調査」において全国平均値との差	80% 90% 85% 80% 国語+2.0 算数+2.0 理科+2.0						
		自分の命は自分で守る児童の育成	・生活科・総合的な学習の時間と他教科の関連を図りながら、カリキュラムマップに基づきながら防災教育の充実を図る。 ・土砂災害・地震津波携帯マニュアルの記載と、自分の避難に関する児童理解を連動させて適切な避難につなげる。	・自分が住む地域に起こりやすい災害について理解している児童の割合 ・災害時に避難する場所や避難の仕方について理解している児童の割合	100% 100%						
★★ 豊かな心	和庄中学校区スピリットに基づく児童(生徒)の育成 ①貫	粘り強くやり抜く児童の育成	・キュービナの効果的な活用となるよう取組を工夫する。 ・目標を立て、自主学習(調べ学習・デジタル新聞学習等)を継続して行うことができるよう取組を工夫する。	・キュービナで解いた問題数2200問(5月から一月あたり200問) ・自主学習に取り組んでいることについて肯定的に回答する児童の割合	85% 80%						
		人を大事にし、学校や地域に貢献する児童の育成	・自分を、そして友達を大事にし合っている姿(DOHM)を中心に、「なごみ賞」として評価する取組を工夫する。(児童相互評価や表彰等)	・自己肯定感(自分にはよいところがある)に関する児童の肯定的回答の割合	90%						
★ 健康・体力	健康促進・体力の向上 ①貫	体力・運動能力の向上	・体育科の授業改善・充実を図る。 授業始めの5分間運動の充実を図る。 コーディネーション運動を取り入れる。 ・「くれチャレンジマッチスタジアム」への参加	・50m走、シャトルラン、握力(重点種目)の記録が県平均を上回る学年の割合 ・11月記録が、11月目標記録を上回る学年の割合(重点種目)	55% 55%						
		基本的な生活習慣の確立 ①貫	・「元気っ子週間(早寝・早起き・朝ごはん・メディアコントロール)」を実施し、望ましい生活リズムの定着を図る。	・21時以降アウトメディア達成ができた児童の割合	75%						
働き方改革	教職員の主体性・積極性が発揮できる教育環境の整備	児童生徒と向き合う時間の確保	・教科担任制の拡充により、自分の専門的な教科の指導を行う時間が増え、教員の主体性・積極性が発揮されるように取り組む。	・児童に向き合う時間が確保されていると感じる教職員の割合 ・日々の業務の中で充実感が得られていると感じる教職員の割合	90% 90%						
		いじめや暴力行為等を許さない学校環境づくりの推進	・児童の悲しみ・つらさ等を共感的に受け止め、迅速かつ適切に対応し、継続的な見守り・指導等をする。 ・DOHMの視点をもとに、いじめ撲滅キャンペーン期間に、児童自らいじめを許さないという視点に立った取組を考え実施する。	・①児童の心情を共感的に受け止めること、②問題行動事案に迅速・適切に対応すること、③問題改善への継続的な見守り・指導等を行うことに関し肯定的回答をする教職員の割合 ・いじめを許さないことに関して肯定的回答をする児童の割合	90% 100%						

【k:評価】
A:100≦(目標達成) B:80≦(ほぼ達成)<100
C:60≦(もう少し)<80 D:(できていない)<60